

～超高齢社会におけるリスクについて考えよう～

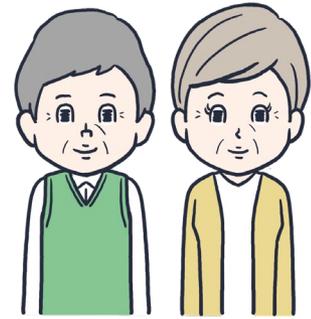
# 人生100年時代に必要な備えとは？

## 本日の授業内容

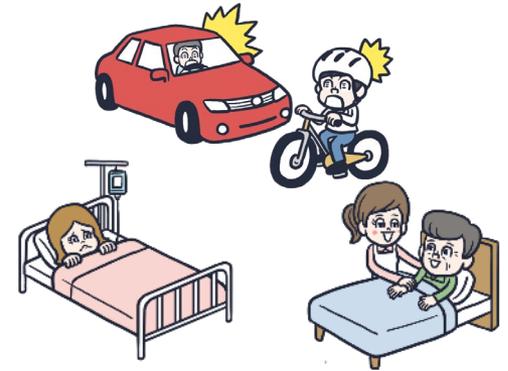
1. 超高齢社会について考えよう
2. リスクについて考えよう
3. 社会保障制度って何だろう？
4. 「預貯金」と「民間保険」の違いって何だろう？
5. まとめ

# 今日のねらい

① **超高齢社会**において、  
日常生活を送るうえで意識  
すべきことを考える。



② リスクから自分の身を守る  
手段として、**自助・共助・  
公助**について理解する。



③ 「自助」として、自分で備え  
る手段の**預貯金と民間保険**  
の特徴を理解する。



# 1. 超高齢社会

について考えよう

# 日本に100歳以上の人は何人いるの？

## 【問題】



2024年の日本の100歳以上の人口は  
どれくらいでしょう？

A. 約950人    B. 約9,500人    C. 約95,000人



参考

1963年(約60年前)には「153人」



【答え】 **C. 約95,000人** ※総人口1億2377万9千人

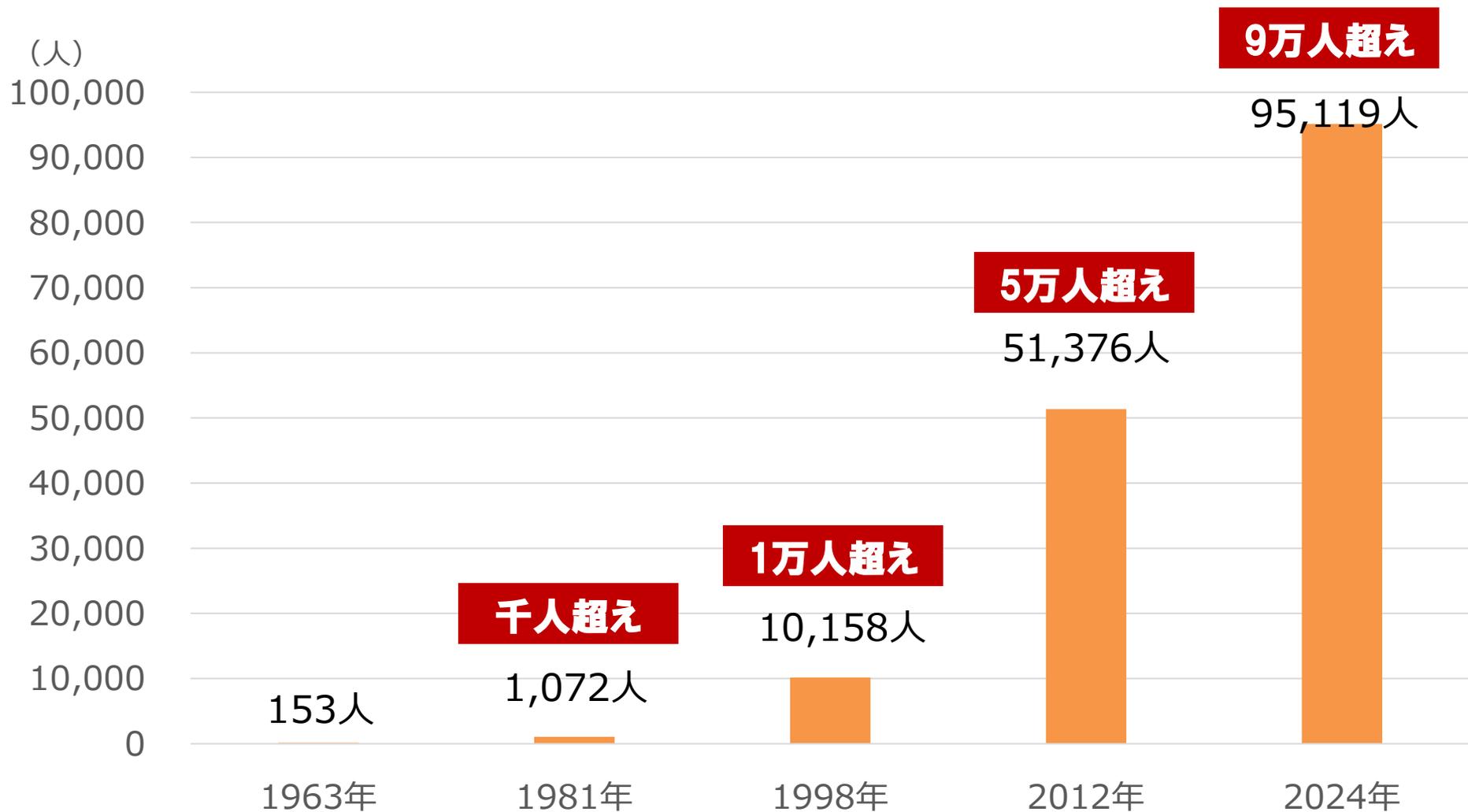
「95,119人」のうち、全体の約88%(83,958人) は女性

※厚生労働省「百歳の高齢者へのお祝い状及び記念品の贈呈について」

(2024年9月1日現在の住民基本台帳による都道府県・指定都市・中核市からの報告数。年齢は2024年9月17日現在。)

※人口統計2024年(令和6年)9月確定値

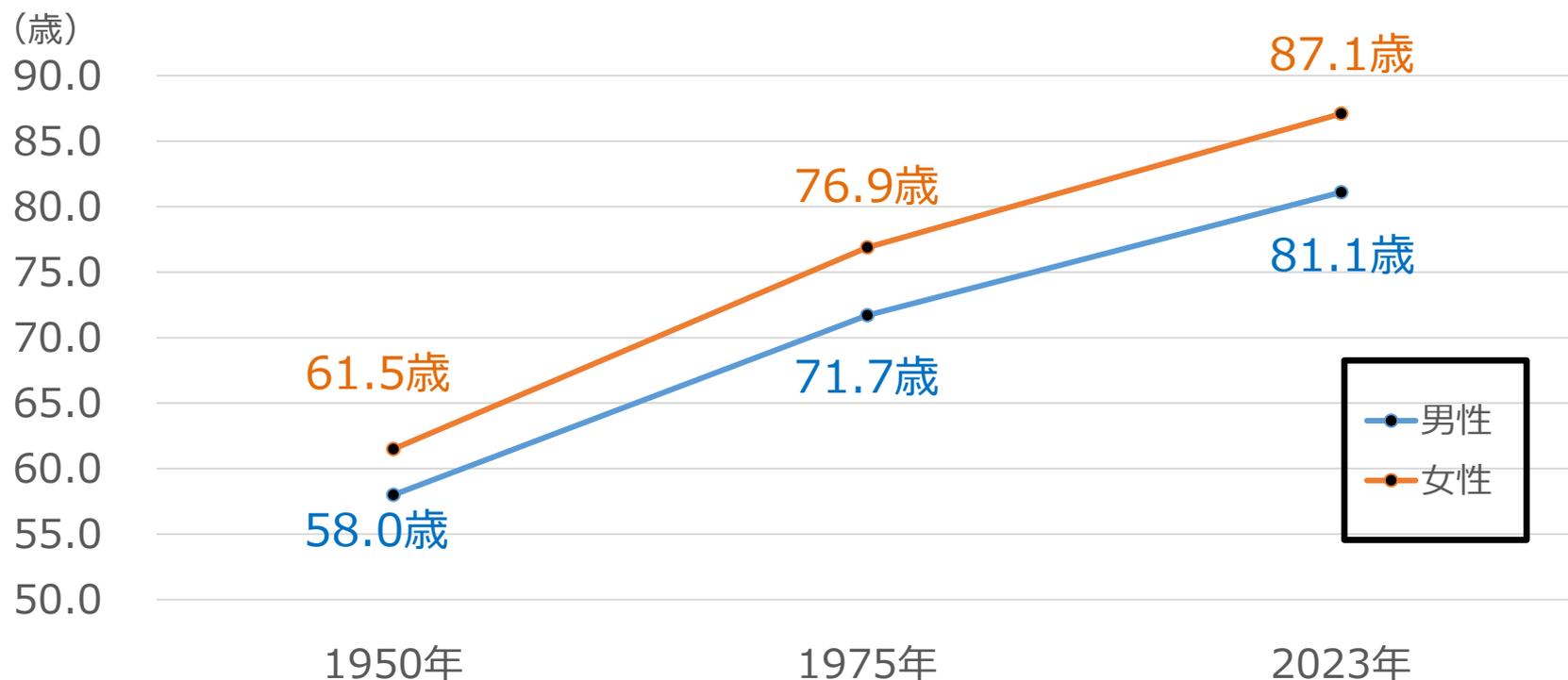
# 100歳以上の高齢者の数



※厚生労働省「百歳の高齢者へのお祝い状及び記念品の贈呈について」  
(2024年9月1日現在の住民基本台帳による都道府県・指定都市・中核市からの報告数。年齢は2024年9月17日現在。)

## 「平均寿命」とは…

0歳の子どもが平均して何歳まで生きられるかを示す指標



# 平均寿命と健康寿命

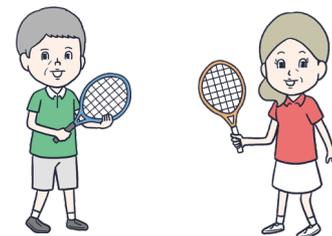
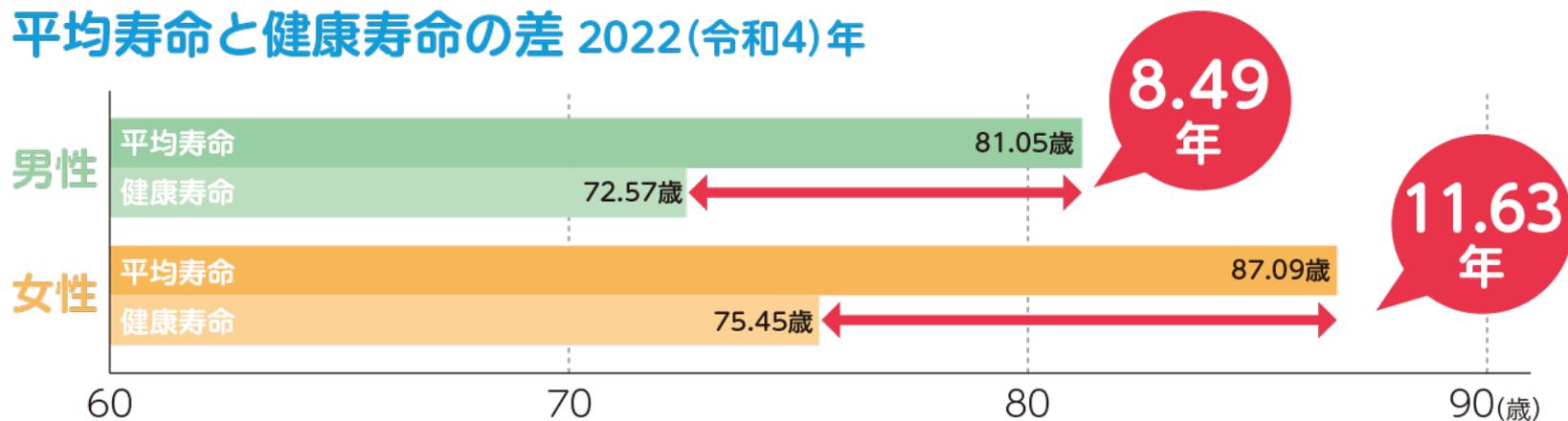
## 「平均寿命」

0歳児が平均して何歳まで生きるかを示したもの

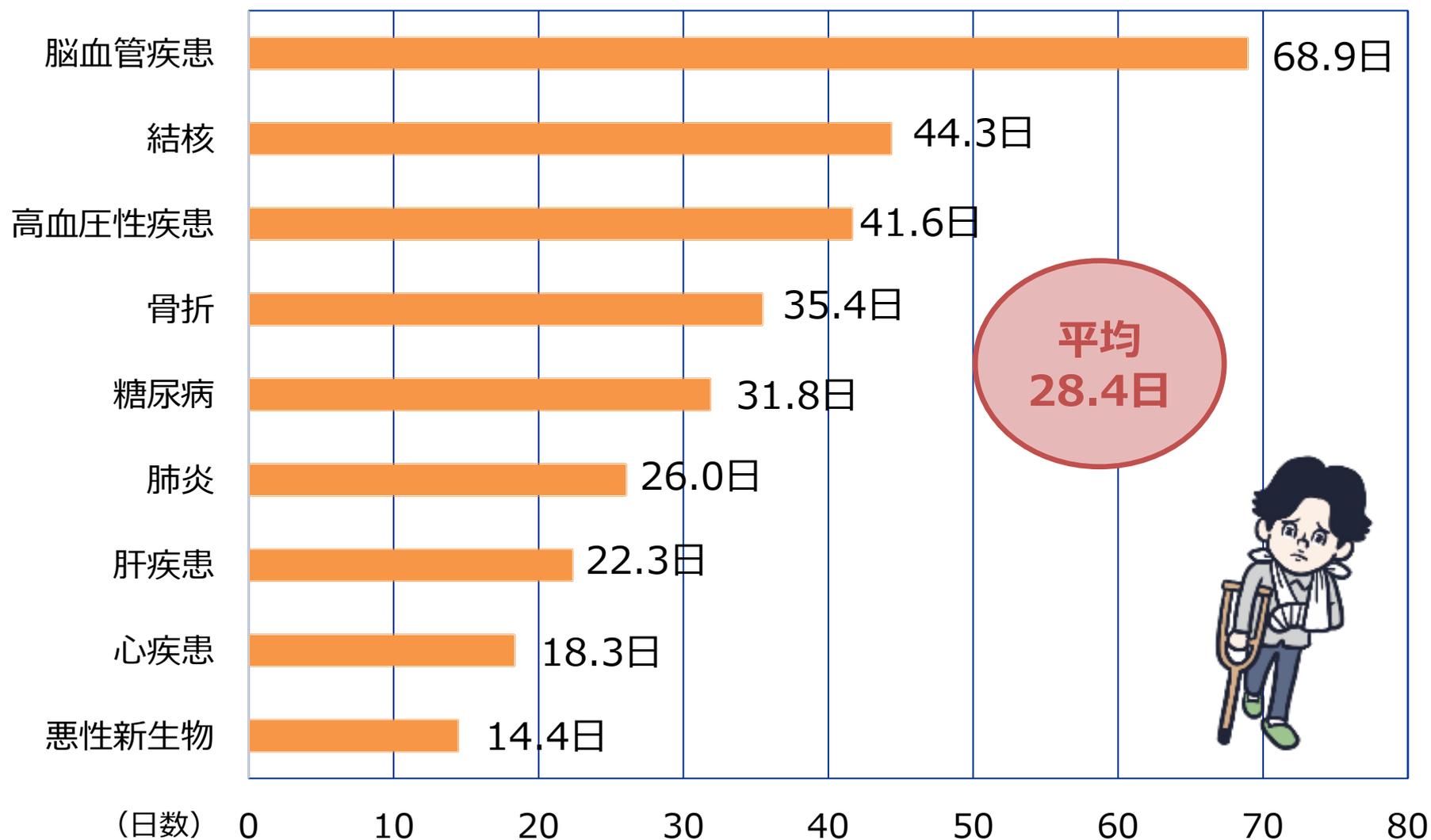
## 「健康寿命」

健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間

平均寿命と健康寿命の差 2022(令和4)年



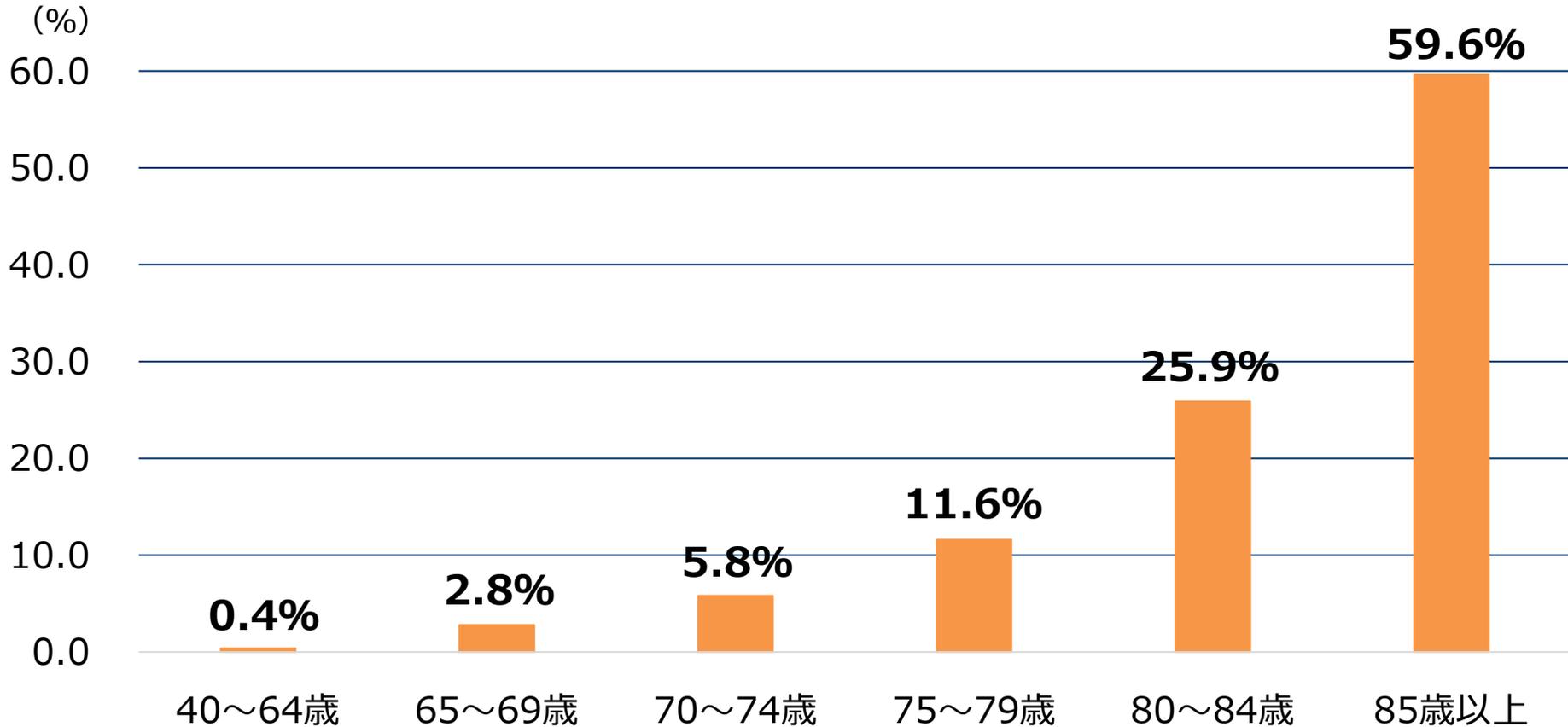
# 主要疾病の平均入院日数



注：「心疾患」は高血圧性のものを除く。

※厚生労働省「患者調査」(令和5年)

# 年代別人口に占める要支援・要介護認定者の割合



認定者数

**17** 万人

**21** 万人

**49** 万人

**88** 万人

**156** 万人

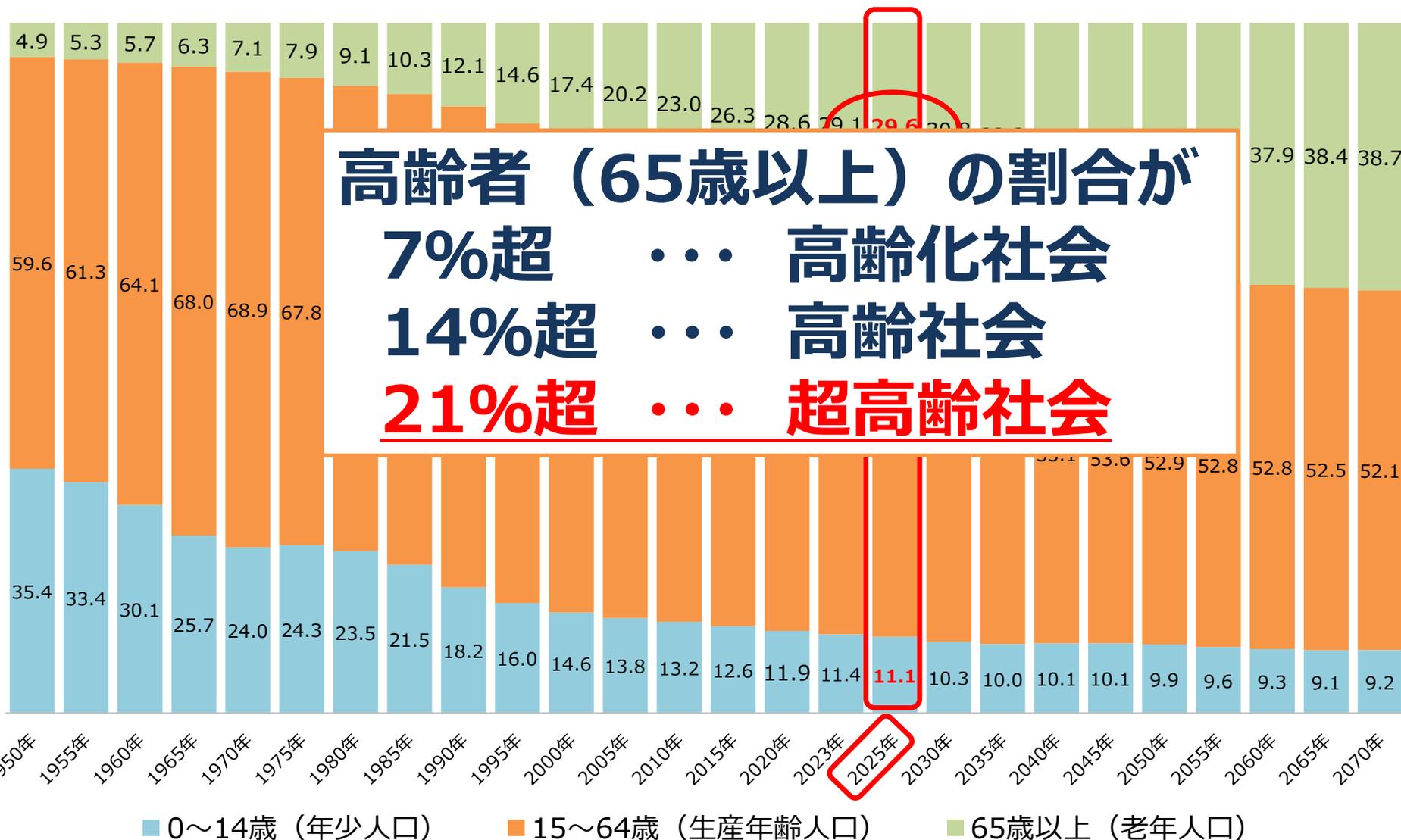
**403** 万人

合計約 **734** 万人

# 日本の少子高齢化の現状と推計

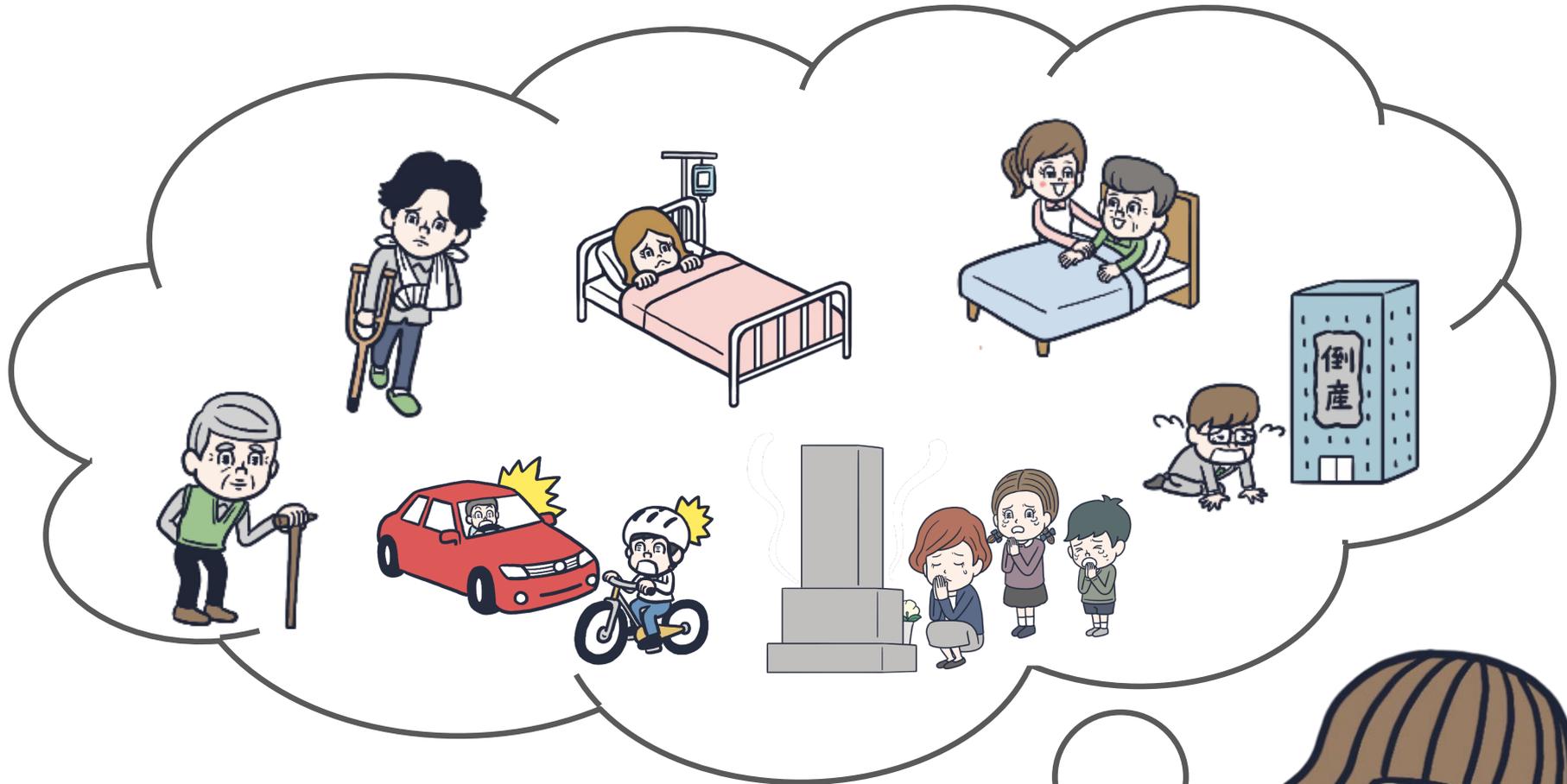
人口に対する各年齢層の割合

(%)



※内閣府「高齢社会白書（概要版）」（令和6年）をもとに生命保険文化センターにて作成

# 人生におけるリスク



人生には色々なリスクがある  
よね。どんなリスクがあるか、  
見てみよう。

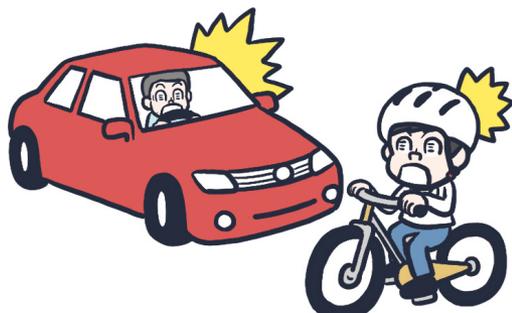


## 2. リスクについて考えよう

# リスクとは何か

起きてほしくないことで、起きると

お金がかかること



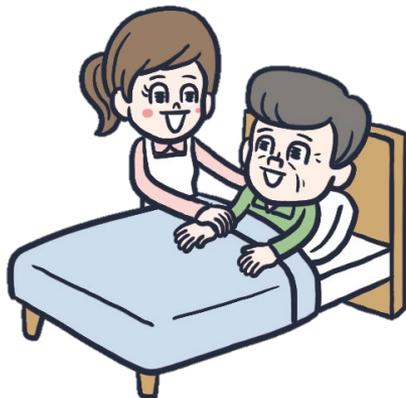
交通事故



病気で入院



自転車の盗難



介護



スマホを破損

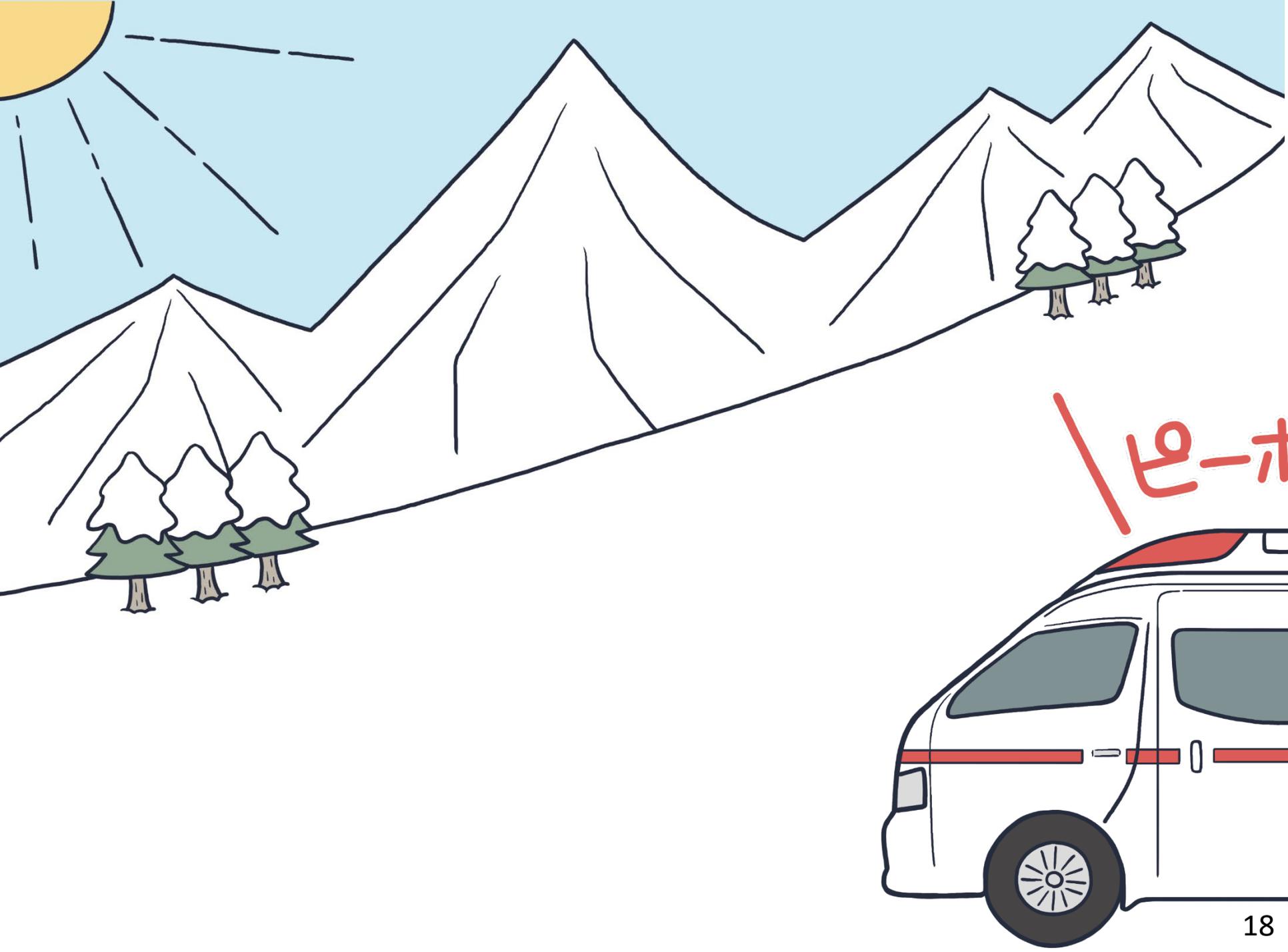


今日は沢山  
すべるぞ〜！









ううっ...

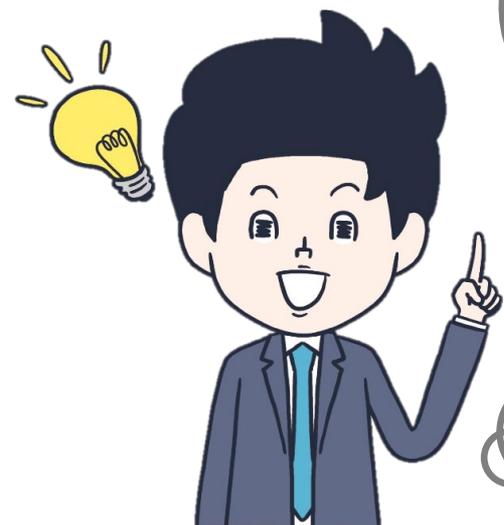


これは...  
手術が必要ですねぇ



# 骨折をしたら・・・ どんなことにお金がかかるか考えてみよう

入院、手術、薬にお金がかかるかな？入院している間の生活費も必要？10,000円くらいかな？



# ①必要となるお金(事例)

★足の骨折で手術が必要となり、22日間入院した事例

—

## ①必要となるお金

かかった医療費	約180万円
その他	約8万円
<b>合計</b>	<b>約188万円</b>

※生命保険文化センター「医療保障ガイド」(2022年10月改訂版)をもとに作成

※その他・・・入院中の衣類・日用品やお見舞いに来た家族の交通費・食費等



## ② 入ってくるお金(事例)

+

### ② 入ってくるお金

公的保障 (公的医療保険)	約168万円
------------------	--------

---

合計	約168万円
----	--------

※生命保険文化センター「医療保障ガイド」(2022年10月改訂版)をもとに作成

ケガや病気で入院したときには、国などから受けられる公的保障として、「**公的医療保険**」があります。

※実際は健康保険組合などから医療機関に支払われるもので、実際に高額な立替えが必要なわけではありません。

### ③自分で準備する必要があるお金(事例)

「必要となるお金」から「入ってくるお金」を差し引いた金額が自分で「準備する必要があるお金」。



#### ① 必要となるお金

かかった医療費	約180万円
その他	約8万円

---

合計	約188万円
----	--------

#### ② 入ってくるお金

公的保障 「公的医療保険」	約168万円
------------------	--------

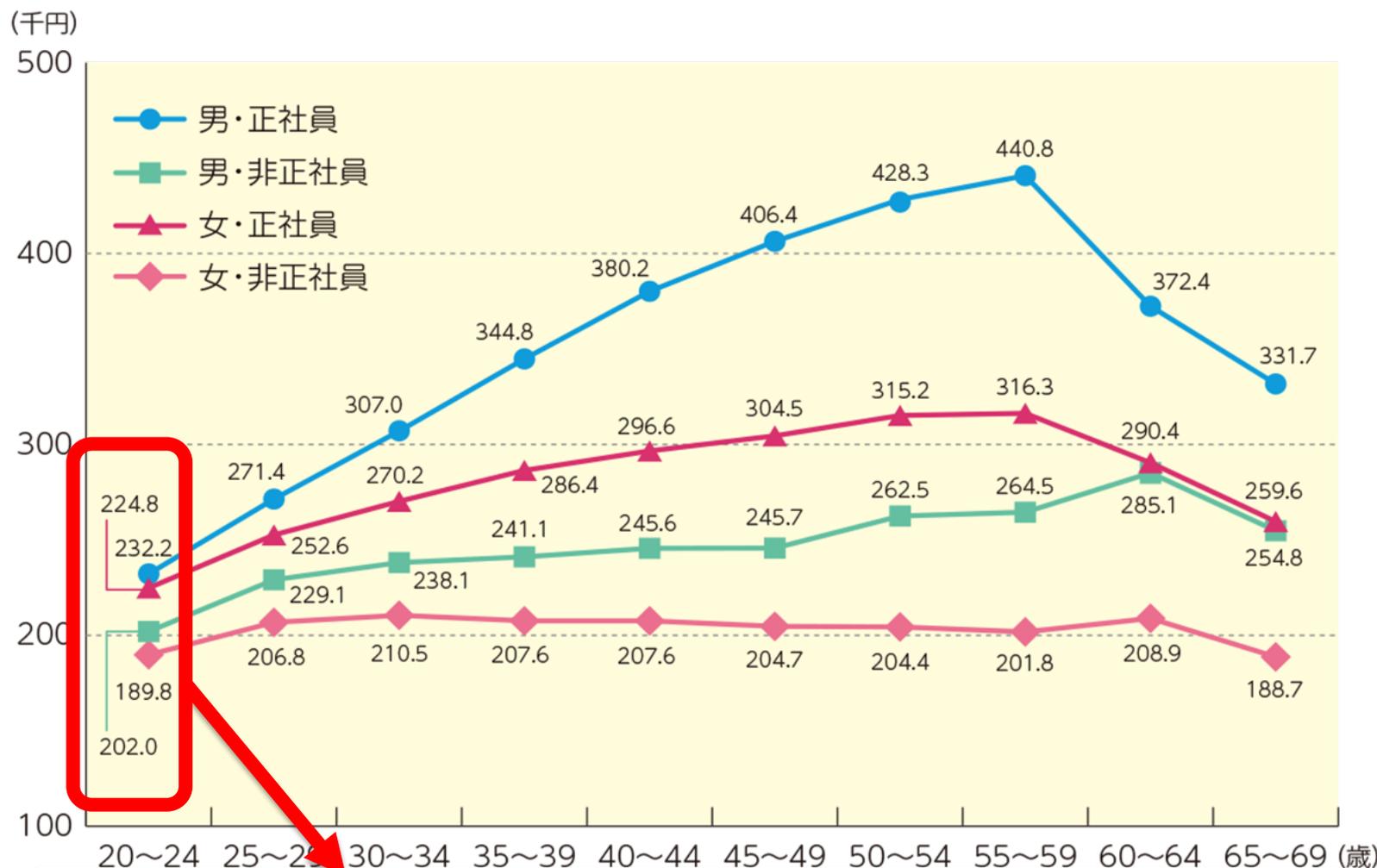
---

合計	約168万円
----	--------

=

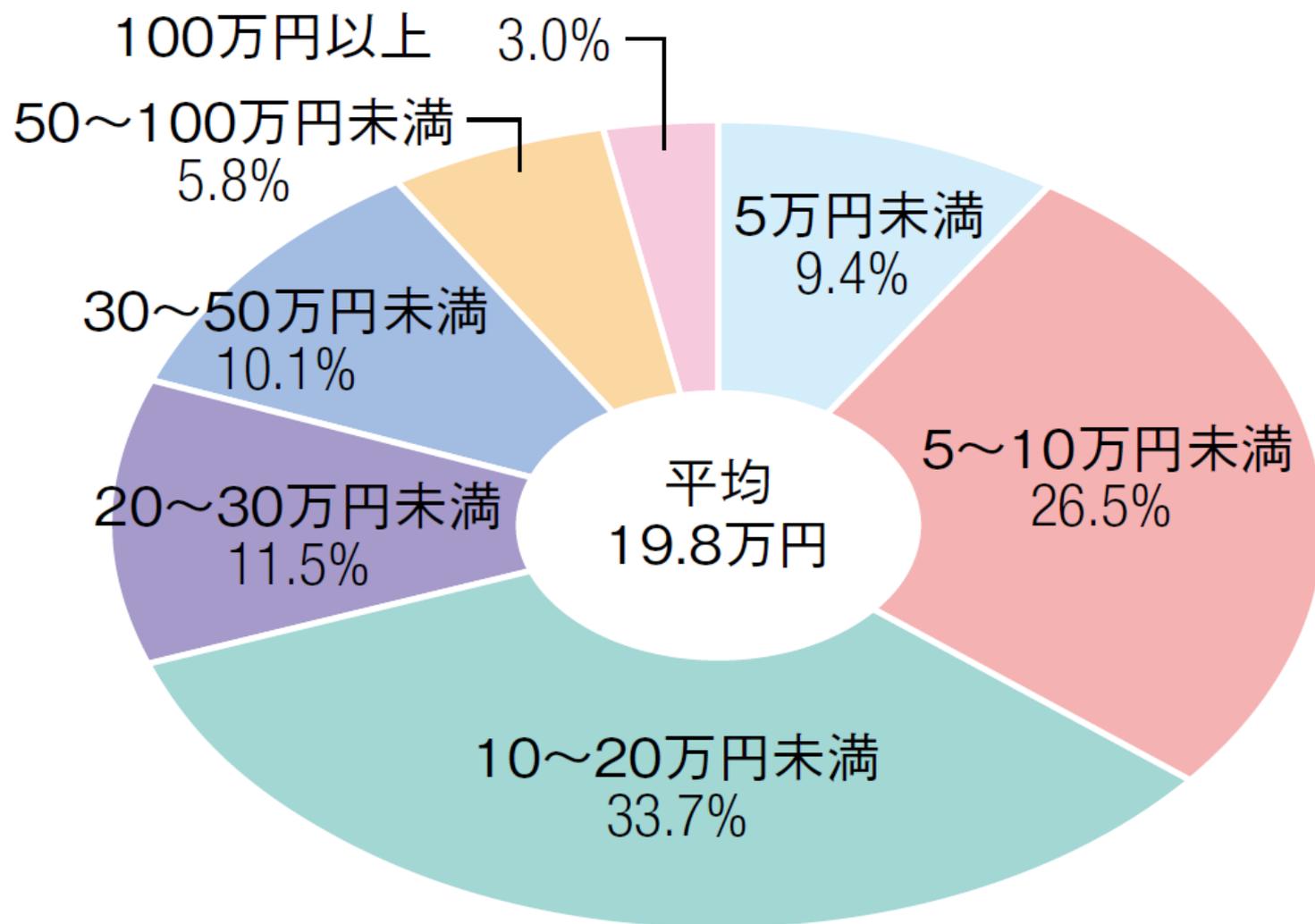
③ 自分で準備する必要があるお金  
**約20万円**

# 月額給与について



● 男性:正社員 **約23.2万円**・非正社員 **約20.2万円**  
 ○ 女性:正社員 **約22.5万円**・非正社員 **約19.0万円**

# 直近の入院時の自己負担費用 (過去5年以内に入院し、自己負担費用を支払った人)



注：一番最近の入院で実際に支払った費用（治療費・食事代・差額ベッド代や交通費・衣類・日用品などを含めて、高額療養費制度を利用した場合は利用後の金額）。  
<生命保険文化センター「生活保障に関する調査(2022年度)>

# 自分の身を守るために

## ① 自助

自分で備える

預貯金

民間保険

## ② 共助

共に備える

健康保険や年金などの「社会保険」

社会保障  
制度

## ③ 公助

国などが備えてくれる

生活に困っている人  
などを支援

**共助**

**公助**

### **3. 社会保障制度 って何だろう？**

# 「社会保障制度」とは

## 社会保障制度

社会  
保険

病気・老後  
定の給付  
(公的医療保

共助

場合に国などが一  
的介護保険 等)

社会  
福祉

障がい者や母子・父子家庭などに対して公的な  
支援を行う制度(児童福祉、高齢者福祉 等)

公的  
扶助

生活に困窮  
保障し、自

公助

最低限の生活を  
制度(生活保護 等)

公衆  
衛生

国民が健康に生活できるよう様々な事項につい  
ての予防、衛生のための制度(予防接種 等)

# 「社会保険」とは

## 社会 保険

### 制度

1. 公的医療保険

2. 公的年金保険

3. 公的介護保険

4. 労働者  
災害補償保険

5. 雇用保険

### 主な保障の内容

病気やケガにかかる治療費



・老後  
・障害状態時  
・遺族 } の生活費など



介護サービス費用  
(訪問介護など)



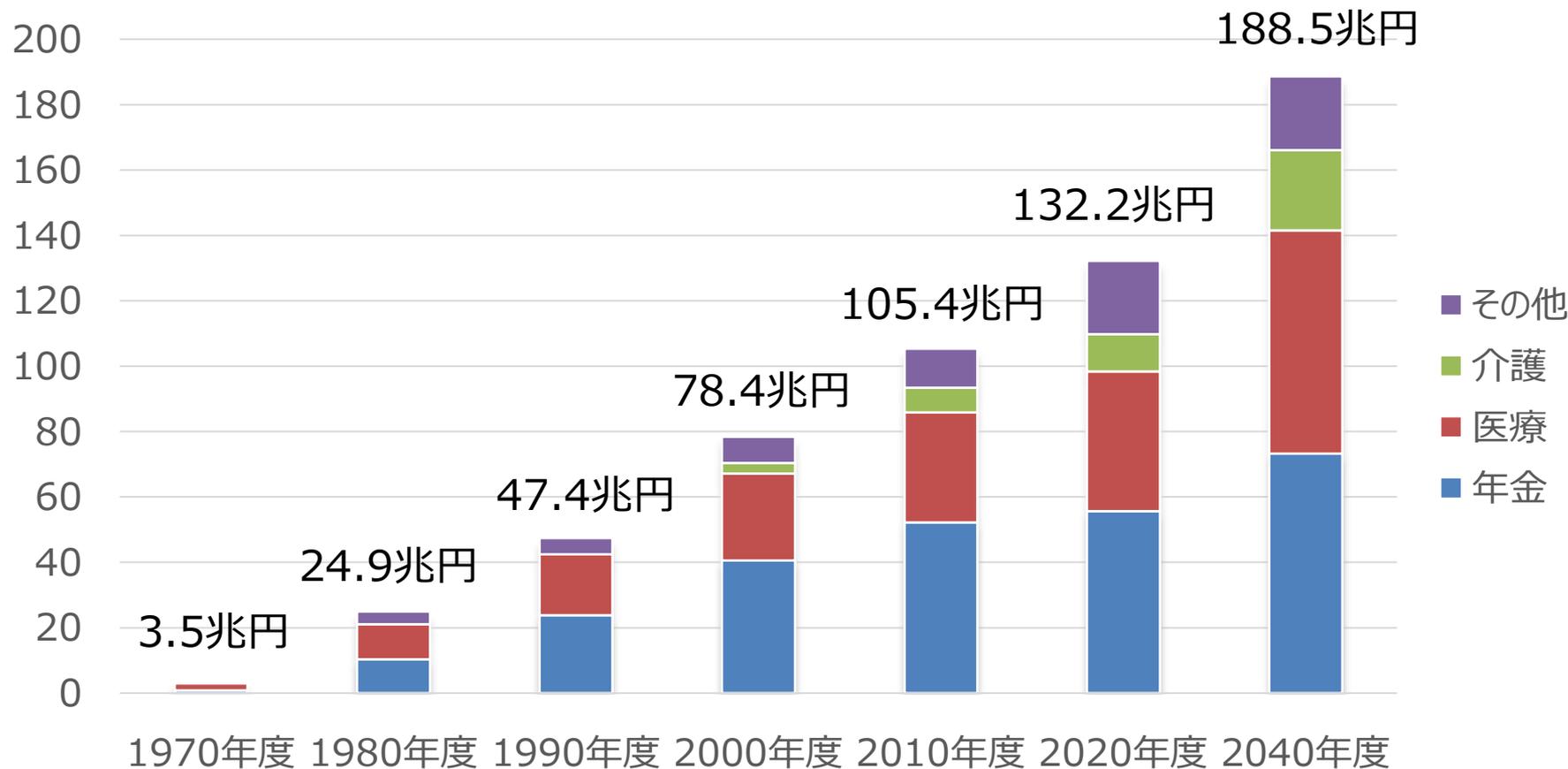
仕事中のケガ等の治療費



失業時の生活費



# 社会保障給付費の推移



(推計)

\*1970・1980・1990・2000・2010・2021年度は国立社会保障・人口問題研究所「社会保障費用統計」、  
2025・2040年度は厚生労働省「2040年を見据えた社会保障の将来見通し（議論の素材）」をもとに生命保険文化センターが作成

# 自助

## 4. 「預貯金」と「民間保険」の 違いって何だろう？

# 自分の身を守るために

## ① 自助

自分で備える

預貯金

民間保険

## ② 共助

共に備える

健康保険や年金などの「社会保険」

社会保障  
制度

## ③ 公助

国などが備えてくれる

生活に困っている人  
などを支援

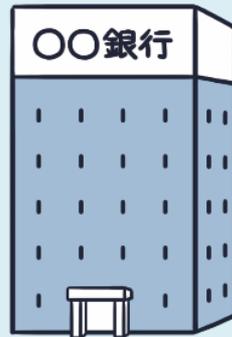
## 4-①.「預貯金」と「民間保険」 の違いは・・・

# 「預貯金」と「民間保険」の違い①

## 預貯金



お金を預ける



お金を引き出す

お金が必要になると

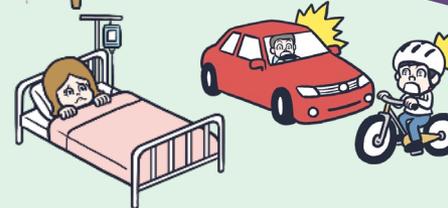
## 民間保険



お金(保険料)を支払う



お金(保険金)を受取る

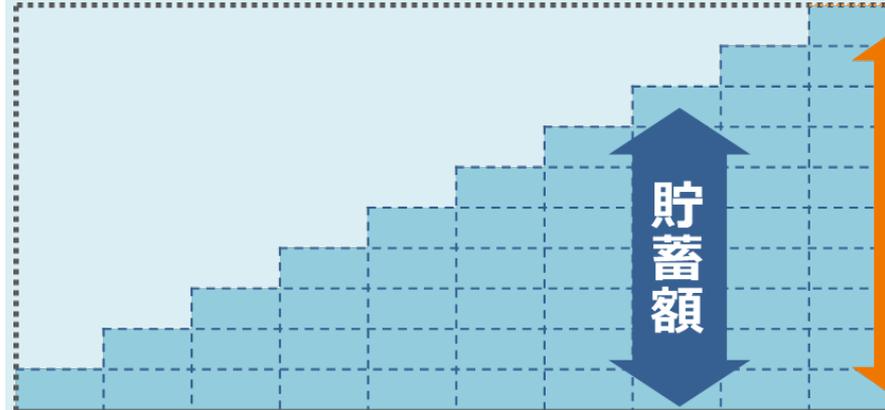


リスクの起きた人が

# 「預貯金」と「民間保険」の違い②

## 預貯金

目標額

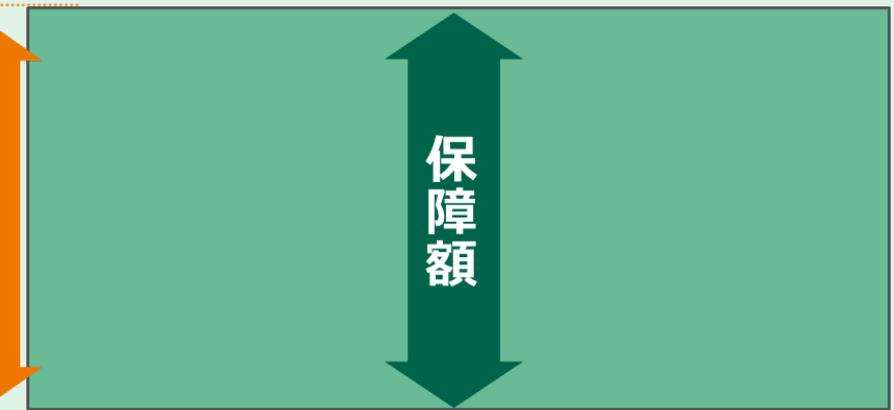


30歳 40歳  
貯蓄額は毎年100万円（総額1,000万円）

特徴

**さまざまな目的の  
ために貯める**

## 民間保険



30歳 40歳  
保険料は毎年約3万円（総額約30万円）

特徴

**特定**のリスク  
に備える

注 ①預貯金は利子や税金などを考慮しない金額。②保険料は男性（30歳）契約で、保険期間10年、保険金額1,000万円の定期保険の例。実際の保険料は、保険種類や契約内容、生命保険会社によって異なる場合があります。

# 「預貯金」と「民間保険」の違い③

## 預貯金

メリット

- 貯めたお金は**自由**に使うことができる。
- 途中での引き出しや貯めるペースが**自由**。
- 預けた金額に応じて利子がつく。

デメリット

- 途中で病気やケガ等、リスクが発生した場合に、**必要な金額が貯まっているとは限らない**。

## 民間保険

- 途中いつでも、病気やケガ等のリスクが発生した場合に、**あらかじめ決められた金額**を受け取ることができる。

- 結果的にリスクが発生しなくても、決められた金額を保険料として支払う必要がある。（保険の種類によっては一部戻ってくる場合がある）

## 4-②. 保険のしくみ

# 保険のしくみ①

100人の部員がいる  
サッカーチーム



毎年  
5人の部員が  
骨折を  
している



対策をしても  
ケガは減らない...



治療にかかる費用は  
1人10,000円



## 保険のしくみ②

全員で治療にかかる  
費用を準備すれば  
よいのでは？

治療にかかる費用は  
全員分で  
 $10,000\text{円} \times 5\text{人}$   
➡  $50,000\text{円}$

$50,000\text{円} \div 100\text{人}$   
➡ 1人あたり  
年間  $500\text{円}$

骨折した生徒は  
 $10,000\text{円}$ を受け取り、  
治療費にあてる

# 保険のしくみ③

## ケガに備えるために……

それぞれが  
出し合う費用



×



100人



¥ 10,000

¥ 10,000

¥ 10,000

¥ 10,000

¥ 10,000



骨折した5人は10,000円ずつ受け取り、治療費を支払える

## 4-③. 生命保険って何?

# 生命保険と損害保険

## 生命保険

## 損害保険

対象

人

モノ

受取額

あらかじめ約束した  
金額

事故により発生した  
損害額

備えられる  
リスク

- 死亡
- 病気・ケガ
- 老後
- 介護



など

- 交通事故
- 火事
- 台風や地震
- ケガ



など

# 生命保険の種類

## 目的と保障の内容



### 「死亡」の保障

**死亡**すると、遺族の生活費等として  
お金(保険金)を受け取れる



### 「病気・ケガ」 の保障

**病気やケガ**により入院や手術をすると  
お金(給付金)を受け取れる



### 「老後」の保障

あらかじめ決められた年齢になると  
決められた期間お金(年金)を受け取れる



### 「介護」の保障

**介護**状態になると  
お金(給付金)を受け取れる

## 種類

定期保険・養老保険  
終身保険  
など

医療保険  
など

個人年金保険  
など

介護保険  
など

# どのくらいの家族が契約しているの？

## 【問題】

国内で「生命保険」を契約している  
家族の割合は約何%？

A.約50%

B.約70%

C.約90%

## 【答え】

C.約90%

⇒ 89.2%

1件でも生命保  
険に加入している  
家族の割合だよ。



# 何件契約しているの？

## 【問題】

家族で契約している生命保険の  
件数は平均で何件？

A.約1件 B.約4件 C.約6件

## 【答え】

B.約4件

⇒ 平均3.8件

例えば3人家族で  
それぞれ病気やケガに  
備えるために「医療保険」  
に契約していれば3件分の  
加入になるよ。



# いくら支払っているの？

## 【問題】

家族が1年間で生命保険会社に支払っているお金（保険料）はいくら？

A.約20万円 B.約40万円 C.約60万円

## 【答え】

B.約40万円

⇒平均35.3万円(年間)  
(月々約2.9万円)

水道光熱費や食費、  
携帯電話のお金など  
の他に、これだけの  
金額を負担してるん  
だね。



# 保険会社全体でいくら支払われているの？

## 【問題】

1年間で国内の生命保険会社から生命保険に契約している人に支払われるお金（保険金等）はいくら？

A.約4,000億円

B.約4兆円

C.約40兆円

## 【答え】

C.約40兆円 ⇒ 約42.8兆円

\* 生命保険協会「2024年版生命保険の動向」

1年間で全生命保険会社が集めた保険料は約37.5兆円。一部は将来の支払いに備えて「資産運用」をしているんだって。



# 5. まとめ

# まとめ

- ① **超高齢社会**で生きていくためには**リスク**に気づくことが大切。
- ② リスクから自分の身を守る手段として**共助・公助**といった**社会保障制度**だけでなく、**預貯金**や**民間保険**といった**自助**もある。
- ③ **社会保障制度**で**不足**する部分を、**自助**である**預貯金**や**民間保険**を利用して準備することが大切。

リスクについて考えることは、  
とても大切なことです。

自分や家族の「人生」について  
考えることにもつながります。

自分の生活や将来に関心を持ち続け、  
自分から情報を集めようとする姿勢が大切  
です。

